

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

2017 年度（前期）指定公募
「在宅医療推進のための学会等への共催」完了報告書

「NPO 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク
第 23 回全国の集い in はちのへ 2017」

学 会 名 : NPO 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク
第 23 回全国の集い in はちのへ 2017
申 請 者 : 小倉 和也
提出年月日 : 平成 29 年 11 月 21 日

【開催概要】

1 事業所名	NPO 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク 第 23 回全国の集い in はちのへ 2017
2 後援団体名	共催：公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団 後援：厚生労働省、青森県、八戸市 他 71 団体
3 実施年月日	平成 29 年 10 月 8 日（日）～9 日（月/祝）
4 実施場所	八戸市公会堂・八戸市公民館 八戸市文化教養センター南部会館 八戸商工会館 八戸ポータルミュージアムはっち
5 事業の目的	高齢化対策だけではなく、子どもも障がいを持つ人も、また子育てや介護をする人も安心して、自分らしく生活できる地域共生社会の実現に向けての取り組みを前に進めることを目的に本大会を開催した。
6 実施内容	大会テーマ 「かだるべし！創るべし！地域のくらし 日本の未来」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 10 月 8 日（日）9：30～17：30 大会長講演、基調講演、メインシンポジウム、 トークセッション、シンポジウム、 市民公開講座 ランチョンセミナー9 枠 実践交流会（テーマごとに 10 枠実施） ・ 10 月 9 日（月/祝）9：30～16：00 シンポジウム、講演、理事会企画 体験セミナー、グループディスカッション （テーマごとに 16 枠実施） ランチョンセミナー8 枠
7 参加人数	【事前参加登録者】 326 名 医師・歯科医師・薬剤師（会員） 52 名 医師・歯科医師・薬剤師（非会員） 16 名 医療・福祉・介護・行政関係者（会員） 138 名 医療・福祉・介護・行政関係者（非会員） 120 名

	<p>【当日参加者】 409名</p> <p>医師・歯科医師・薬剤師（会員）11名</p> <p>医師・歯科医師・薬剤師（非会員）16名</p> <p>医療・福祉・介護・行政関係者（会員）8名</p> <p>医療・福祉・介護・行政関係者（非会員）54名</p> <p>市民・学生 170名</p> <p>市民公開講座（入場無料）250名</p> <p>【総参加人数】 835名</p>
--	--

【大会を終えての感想】

「かだるべし！創るべし！地域のくらし日本の未来」というテーマのもと、講演企画プログラム、実践交流会を実施した。

基調講演には株式会社ぐるんとびー代表取締役 菅原 健介氏を招き、地域共生社会の先進事例として「藤沢型地域包括ケアシステム」についてお話いただいた。

さらに誰もが我が事として様々な支援と支え合いを丸ごと考えて実行していくことを推進している国としての政策の概要を厚生労働省政策管理（総合政策担当）付政策企画官 野崎伸一氏にご紹介頂いた。

その後、大会長小倉氏、NPO 会長苛原氏、青森県健康福祉部の久保氏を加え「地域共生社会を目指して」のテーマのもと、討論を展開し、熱のこもった議論を交わすことができた。



●メインシンポジウムの様子

本大会の特色とも言える実践交流会では、それぞれ 10 のテーマに分かれ、全 86 題の発表が行われ、日頃の取り組みが報告された。

本大会では例年の 9 テーマに加え「障がい者・障がい児ケアについて」を新設し、障がい者へのサポートや医療的ケア児についての発表の場を設けたことで、実際に直面している問題や課題等について意見交換や交流を図ることができた。



●実践交流会 「障がい者・障がい児ケアについて」発表の様子

また、本大会は会場が 5 会場あり、建物が離れていたため、移動時間に屋外でひろばイベントを行い、参加の呼びかけを行った。

地元で活躍するバトンチーム「アリエス」によるバトントワリング、日本ダウン症協会 八戸支部の「八戸小鳩会」によるダンスパフォーマンス。

その他、サッカー、アイスホッケーのスポーツチームによるイベント、八戸せんべい汁のお振舞いを行った。

市民、学生の関心を集め、大会参加を呼びかけたことで、市民 170 名と多数の参加に繋げることができた。



●ひろばイベント アリエスによるバトントワリングの様子

市民公開講座においては、社会福祉法人世田谷区立福祉事業団特別養護老人ホーム芦花ホームの医師 石飛 幸三先生をお招きし、「老衰に医療をどこまでするか」についてご講演頂いた。地元の新聞や広報誌で周知していたこと、また手話通訳者の方にお越し頂いたこともあり、250名という参加に繋がった。参加者は、老衰という自然の摂理と延命治療についての知識を深め、人生の最期の迎え方について考えるきっかけとなった。



●市民公開講座の様子

はちのへ大会より、新たに企画された理事会企画「地域包括ケア実現のためにいま私たちがすべきこと」ではシンポジウムが行われた。

NPO 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワークと株式会社メディヴァが実施した市町村の取り組みを評価するプロジェクトのアンケート調査の分析結果の報告発表に始まり、在宅医療介護連携推進事業の先進自治体の横須賀市の川名氏と新潟市の清水氏に事例をご紹介頂いた。

また、国立長寿医療研究センターの後藤氏には全国 300 の地域を周り在宅医療・介護連携と地域包括ケアシステムの取り組みを研究された経験に基づき成功事例の紹介や、上手くいっている自治体とそうでない自治体の違い、その要因等についてお話頂いた。

その後、それぞれの立場から在宅医療・介護連携推進事業の円滑な推進について議論し、地域包括ケア実現に必要な取り組みについて検討することができた。



●理事会企画シンポジウム「地域包括ケア実現のためにいま私たちがすべきこと」

全体を通し、在宅医療に携わる医師・多職種に関しては、研鑽及び顔のみえる連携のきっかけとなり、市民の皆様には「在宅医療」「共生社会」について、支え合うことの重要性を知って頂くことができたと感じている。

また、在宅医療、高齢者医療のみならず、子育て支援、障がい者支援、教育など多岐に渡る分野より地域共生社会についての取り組みを多職種、市民で共有することができた。

【謝 辞】

本大会の開催に対し、助成を賜りました公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団様に深く感謝申し上げます。